

令和7年度「全国学力・学習状況調査」の結果 —分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

区 名 住之江区

学 校 名 粉浜小学校

学校長名 信貴通子

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和7年4月17日（木）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数・理科）に関する調査」と「児童質問調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数
- ・理科

(2) 質問調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・粉浜小学校では、第6学年 51名

令和7年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

平均正答率が、国語では62%・算数では57%・理科では52%と、それぞれ市の平均正答率より3P・1P・3Pという結果であった。

【国語】では、「記録された情報を理解する力」「問題文を手掛かりにして自分の考えを記述でまとめる力」に関する問いについて、府の平均正答率を4～9P上回っている。課題としては、「話し手の意見と比較しながら自分の意見をまとめる力」「図表などを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する力」がそれぞれ、府の平均正答率より10P以上低く、「目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付ける力」が20P以上低い正答率という結果となっている。

【算数】では、図形および小数の知識・技能に関する問いについて、府の平均正答率を6～11P上回っている。課題としては、分数に関する問い、はかりの目盛りを読み取る問い、基本となる数の何倍かを考える問いなどが、それぞれ、府の平均正答率より4～10P低い正答率という結果となっている。

【理科】では、顕微鏡の使い方に関する問い、水の状態変化に関する問いなどが、府の平均正答率を4～6P上回っている。課題としては、身の回りの金属に関する知識・技能の問い、直列つなぎに関する知識・技能の問いなどが、それぞれ、府の平均正答率より4～26P低い正答率という結果となっている。また、発芽するために必要な条件について、実験の条件を制御した解決の方法を発想する思考力については、府の平均正答率より5～8P低いという結果となっている。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

【国語】与えられた情報をもとにして、自分の意見や考えをまとめる力がついてきていると言える。これは、日々の授業の中での一人1台学習者用端末の十分な活用の成果と言える。課題としては、授業の中で、一人1台学習者用端末の活用のステップアップとして、協働的活用への深化が必要であると考えられる。例えば、グループや班で話し合い活動をする中で、自身の意見や考えをパワーポイントや発表ノートなどを使って伝えるだけでなく、クラスメイトの意見と自身の意見を比較したり、クラスメイトの発表をうけて新しく気づいたことを自身の考えと合わせて発表したり、あるいは自身の意見や考えの理由付けとして必要な情報を自身で探し出し、選び、それを提示しながら発表したりする活用の仕方を、授業改革の一環として取り組む必要があると考える。

【算数】図形・小数に関する力は、概ね定着していると考えられる。また、全体的に、選択回答・記述回答どちらもしっかり回答できているという結果である。これは日々の算数の授業の中で、回答方法を短答だけで終わらせず、しっかりその考えの理由まで考えるようにしている成果だと言える。課題としては、分数に関する知識・技能の定着、もとなる数との関係から考える思考力の育成が必要であると考えられる。

【理科】実験道具の使い方やなどの基礎知識がしっかり定着している。これは専科制度の推進の中で、理科専科による専門性を生かした授業の成果と言える。課題としては、電流・直列つなぎ・乾電池など「エネルギー」領域の知識・技能の定着が課題であると言える。また、どのような条件で実験を行えば、自分の予想が証明できるのかという思考力の育成が必要であると考えられる。

質問調査より

「自分にはよいところがあると思いますか」に最も肯定的に回答している児童が62%、肯定的に回答している児童全体では92%という結果となっている。また、「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に最も肯定的に回答している児童は88%、肯定的に回答している児童全体では、98%という結果になっている。「友達や周りの人の考えを大切に、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか」に肯定的に回答した児童は94%と、市の肯定的回答90.4%を3.6P上回っている。自己肯定感が高く、自他とも大切な存在であるということを理解している児童が大変多い結果となった。

「算数の勉強は好きですか」に肯定的に回答した児童は36%と、市の肯定的回答56.2%より20Pも下回る結果となった。算数の平均正答率は、市平均正答率より1Pという僅差であったにもかかわらず、意識調査では大きな開きとなった。

「学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか」に肯定的な回答をしている児童は88%と、市の肯定的回答75.3%を12.7Pも上回る結果となった。

「あなたは、ICT機器を使って、情報の整理をする（図・表・グラフ・思考ツールを使ってまとめる）ことができると思いますか」に肯定的な回答をした児童は62%と市の肯定的回答67.5%を5.5P下回る結果となった。

今後の取組(アクションプラン)

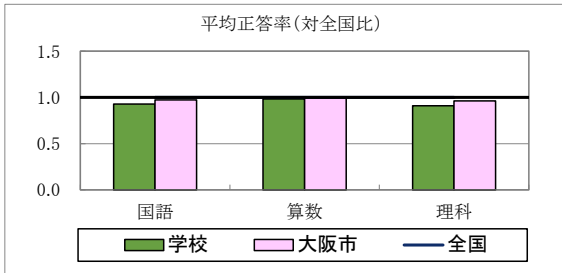
教職員一人一人の指導の中で、温かい学校の雰囲気が構築されていると考える。今後も引き続き、自他ともに大切にする人権感覚を重視した学校運営を行っていく。

一人1台学習者用端末はじめICT機器の活用は、日々の授業の中での活用がしっかり定着していると考えられる。今後は、一人1台学習者用端末の有効的活用の研究を通して、協働的な学びのさらなる充実をめざし、授業研究を深める。あわせて今後は、学校として一人1台学習者用端末の持ち帰りを推進し、家庭学習においても活用するようにすることで、学びの視野を広げる。

【 全体の概要 】

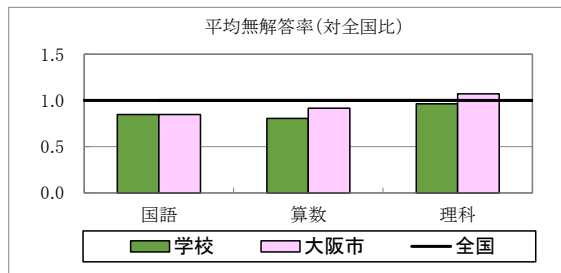
平均正答率（％）

	国語	算数	理科
学校	62	57	52
大阪市	65	58	55
全国	66.8	58.0	57.1



平均無解答率（％）

	国語	算数	理科
学校	2.8	2.9	2.7
大阪市	2.8	3.3	3.0
全国	3.3	3.6	2.8



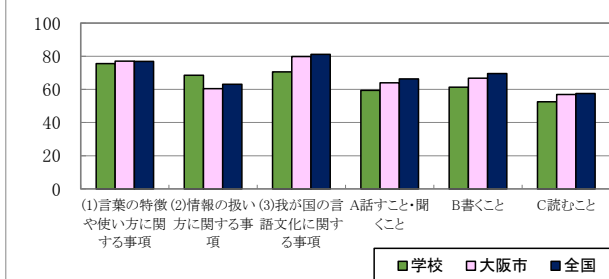
【 国 語 】

学習指導要領 の内容	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い 方に関する事項	2	75.5	77.1	76.9
(2)情報の扱い方に 関する事項	1	68.6	60.4	63.1
(3)我が国の言語文 化に関する事項	1	70.6	79.9	81.2
A 話すこと・聞くこと	3	59.5	64.0	66.3
B 書くこと	3	61.4	66.7	69.5
C 読むこと	4	52.5	56.9	57.5

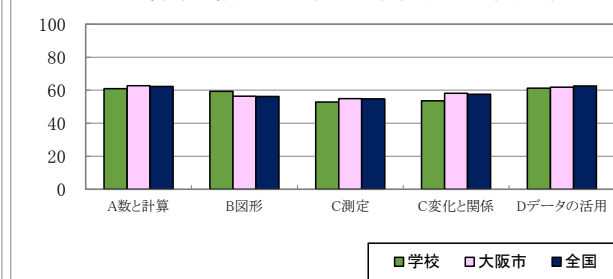
【 算 数 】

学習指導要領 の領域	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 数と計算	8	61.0	62.7	62.3
B 図形	4	59.3	56.4	56.2
C 測定	2	52.9	54.9	54.8
C 変化と関係	3	53.6	58.2	57.5
D データの活用	5	61.2	61.9	62.6

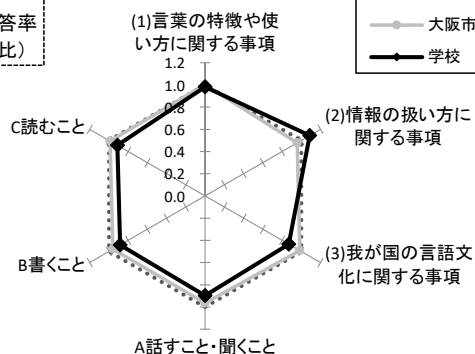
国語 内容別正答率(学校、大阪市、全国)



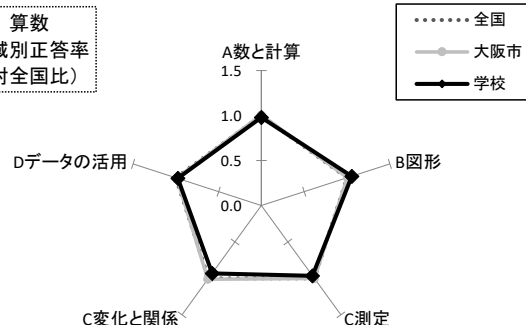
算数 領域別正答率(学校、大阪市、全国)



国語
内容別正答率
(対全国比)

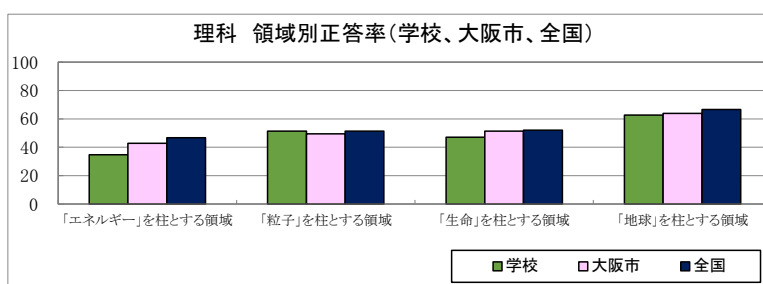


算数
領域別正答率
(対全国比)

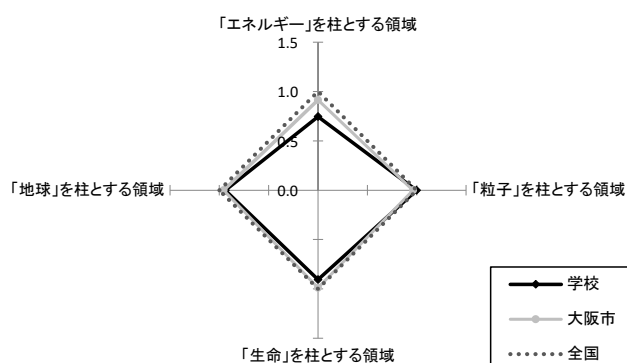


【 理科 】

学習指導要領 の区分・領域	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)			
		学校	大阪市	全国	
A 区 分	「エネルギー」を 柱とする領域	4	34.8	42.7	46.7
	「粒子」を 柱とする領域	6	51.3	49.5	51.4
B 区 分	「生命」を 柱とする領域	4	47.1	51.4	52.0
	「地球」を 柱とする領域	6	62.7	63.8	66.7



理科 領域別正答率(対全国比)



児童質問より

質問番号

質問事項

5

自分には、よいところがあると思いますか

1

2

3

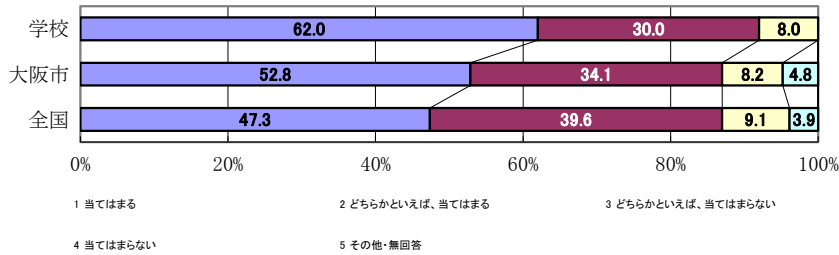
4

5

6

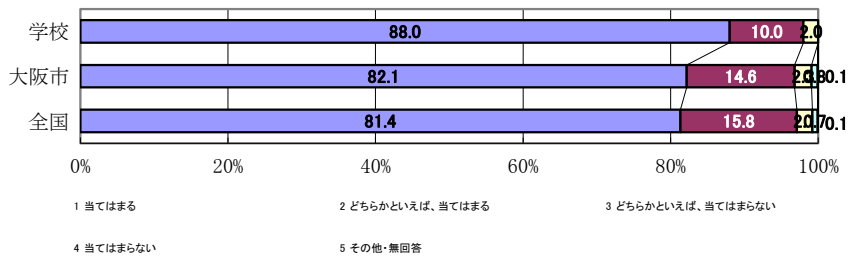
7

8



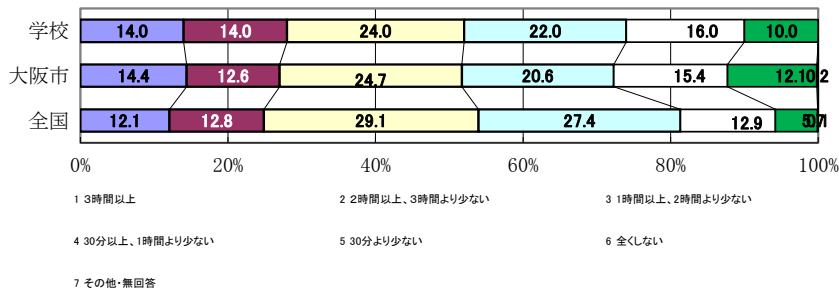
9

いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか



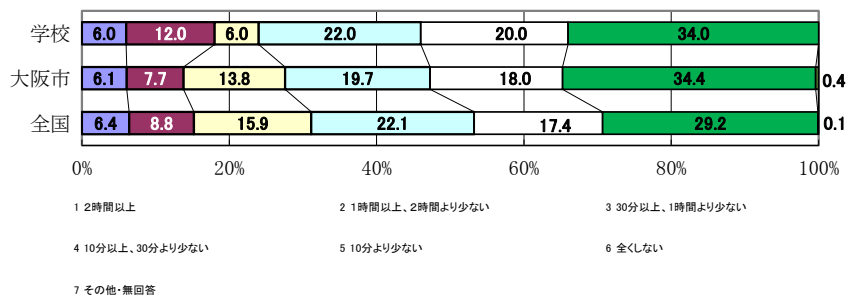
17

学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）



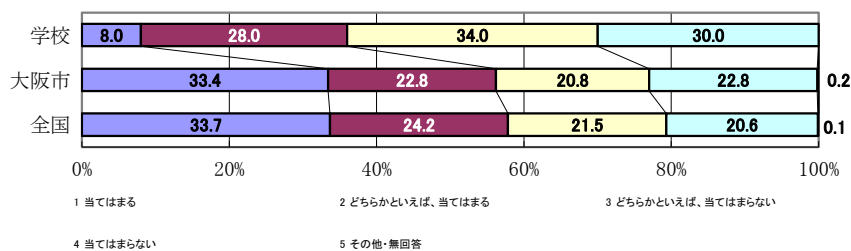
21

学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか（電子書籍の読書も含む。教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）



53

算数の勉強は好きですか



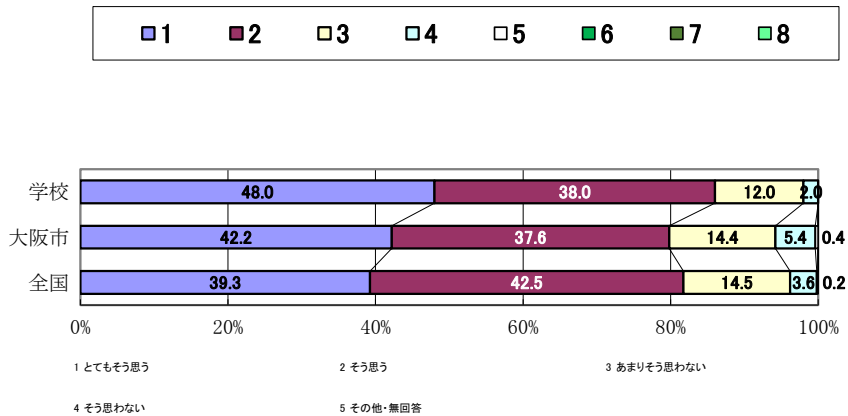
児童質問より

質問番号

質問事項

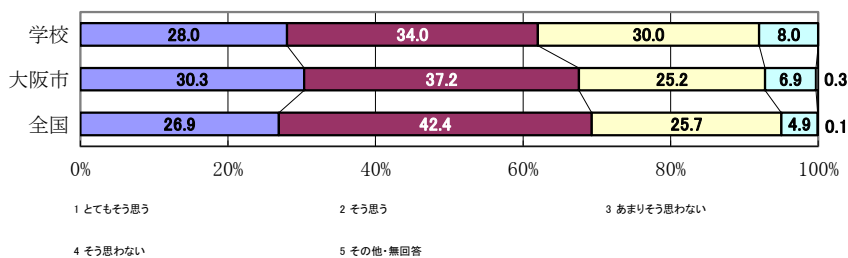
72

あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器で文章を作成する(文字、コメントを書くなど)ことができますか



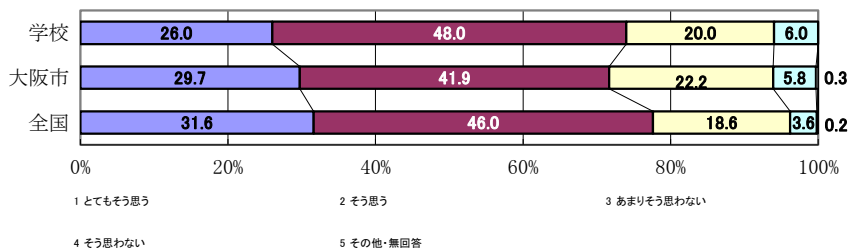
74

あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って情報を整理する(図、表、グラフ、思考ツールなどを使ってまとめる)ことができますか



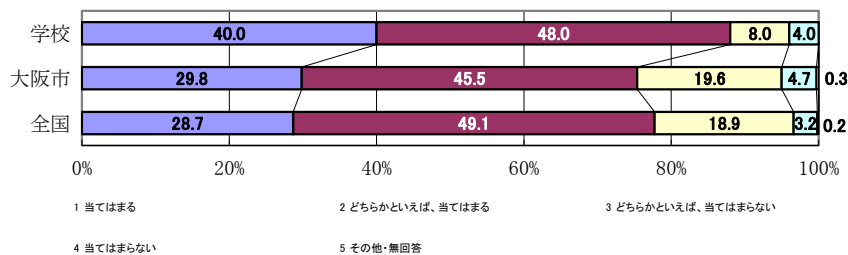
80

5年生までの学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、次のことはあなたにどれくらい当てはまりますか。(5)自分の考えや意見を分かりやすく伝えることができる



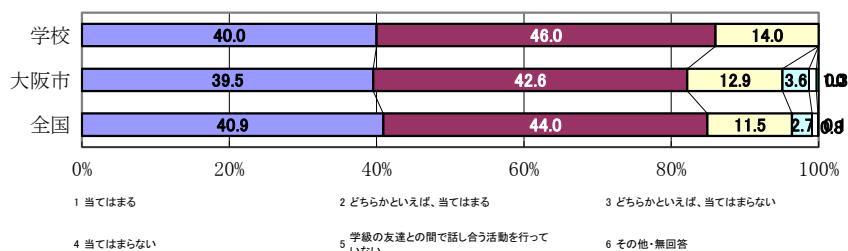
33

5年生までに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか



35

学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか



児童質問より

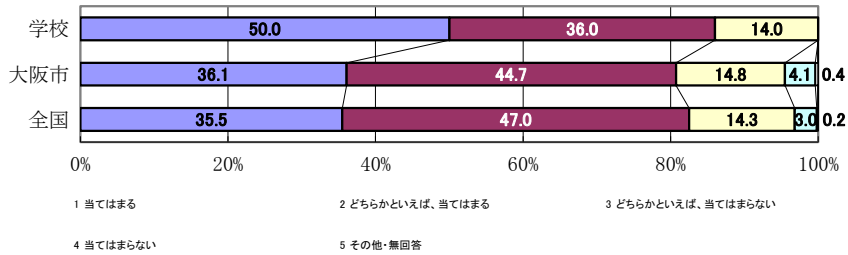
質問番号

質問事項

37

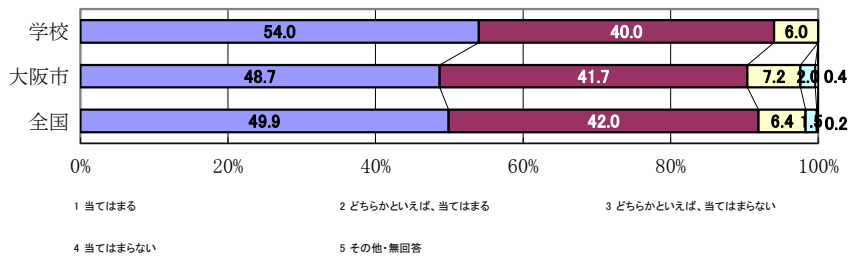
授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができると思えますか

1 2 3 4 5 6 7 8



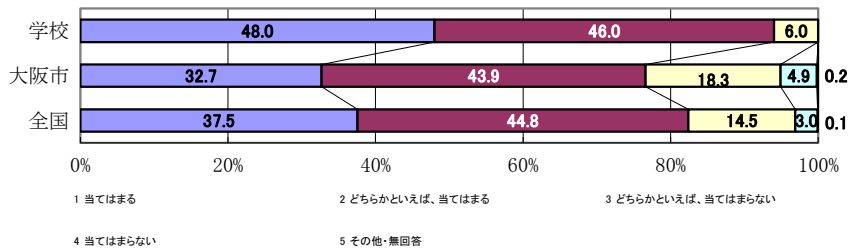
39

授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切に、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか



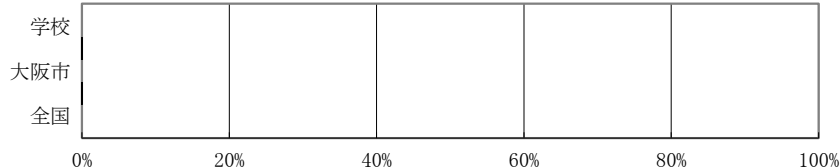
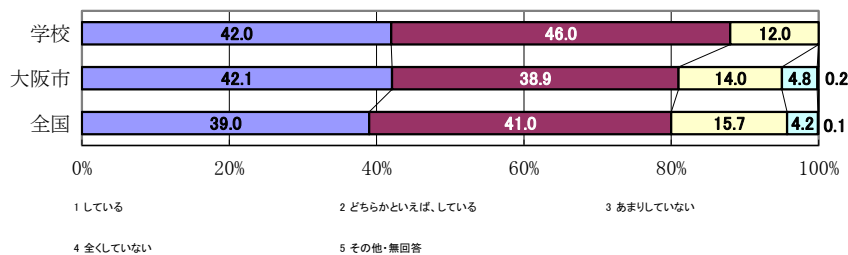
40

総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか



71

健康に過ごすために、授業で学習したことや保健室の先生などから教えられたことを、普段の生活に役立っていますか



学校質問より

質問番号

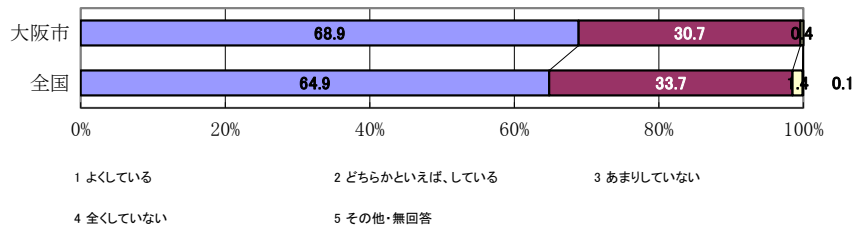
質問事項

18

授業研究や事例研究等、実践的な研修を行っていますか

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

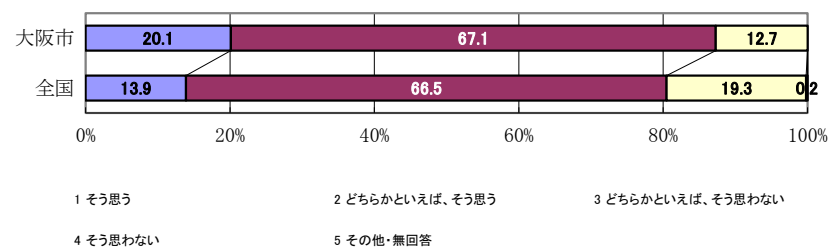
学校 「どちらかといえば、している」を選択



26

調査対象学年の児童は、授業において、自らの考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して、発言や発表を行うことができていると思いますか

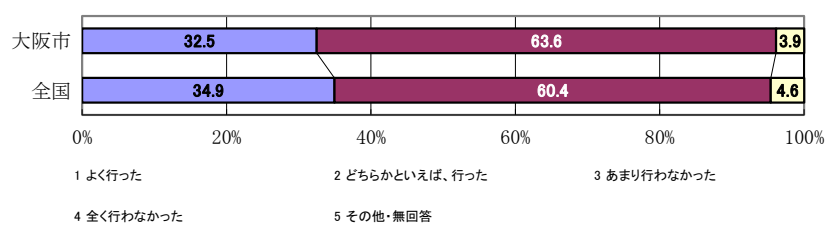
学校 「どちらかといえば、そう思う」を選択



31

調査対象学年の児童に対して、前年度までに、学習指導において、児童が、それぞれのよさを生かしながら、他者と情報交換して話し合ったり、異なる視点から考えたり、協力し合ったりできるように学習課題や活動を工夫しましたか

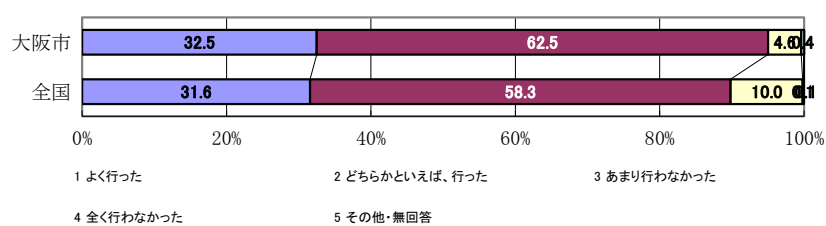
学校 「どちらかといえば、行った」を選択



32

調査対象学年の児童に対して、前年度までに、授業において、児童自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れましたか

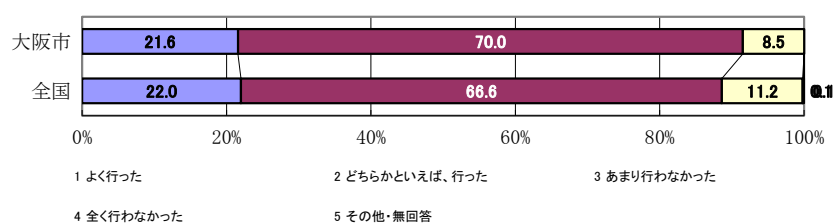
学校 「どちらかといえば、行った」を選択



33

調査対象学年の児童に対して、前年度までに、習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をしましたか

学校 「どちらかといえば、行った」を選択



学校質問より

質問番号
質問事項

48

調査対象学年の児童に対する

© 2006 The Authors

55

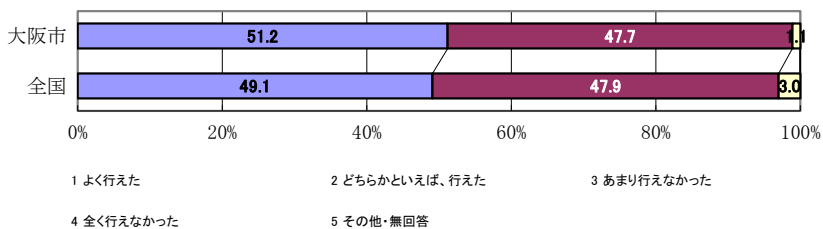
Page 10 of 10

66

学校「よく行えた」を選択

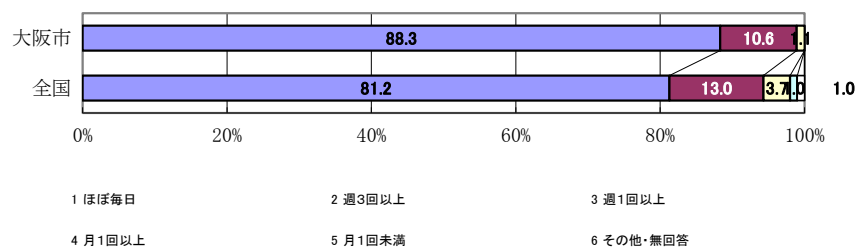
学校	1 よく行えた	2 どちらかといえば、行えた	3 あまり行えなかった	4 全く行えなかった	5 その他・無回答
大阪市	51.2	47.7	1.0	0.0	0.0
全国	49.1	47.9	3.0	0.0	0.0

1 よく行えた 2 どちらかといえば、行えた 3 あまり行えなかった
4 全く行えなかった 5 その他・無回答



学校「ほぼ毎日」を選択

Category	ほぼ毎日	2週3回以上	3週1回以上	4月1回以上	5月1回未満	6 その他・無回答
大阪市	88.3	10.6	1.1			
全国	81.2	13.0	3.7			

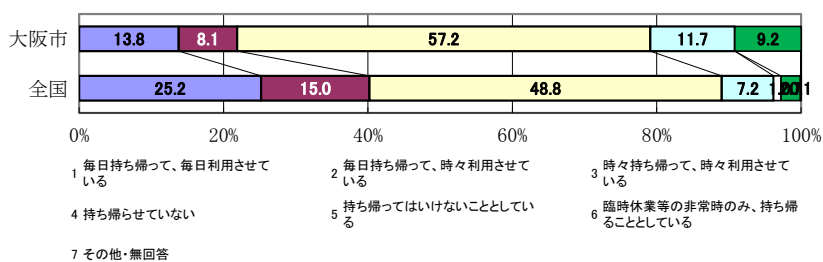


学校「持ち帰らせていない」を選択

大阪市

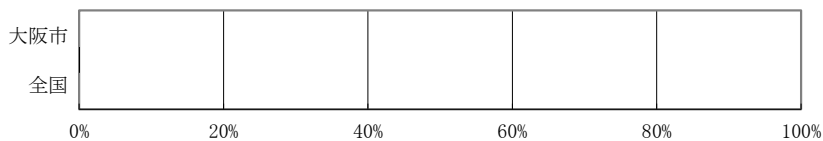
全国

理由	大阪市 (%)	全国 (%)
1 毎日持ち帰って、毎日利用させている	13.8	25.2
2 毎日持ち帰って、時々利用させている	8.1	15.0
3 時々持ち帰って、時々利用させている	57.2	48.8
4 持ち帰らせていない	11.7	7.2
5 持ち帰ってはいいけどとっている	9.2	2.1
6 臨時休業等の非常時のみ、持ち帰ることとしている		
7 その他・無回答		



学校「」を選択

学校「」を選択	割合
大阪市	20%
全国	40%



学校「」を選択

大阪市

全国

Category	Percentage
大阪市	20%
全国	40%

